

こころる便り

第227号

平成31年2月

〒679-4343
兵庫県たつの市新宮町大屋六六ハ一十二
株式会社 新宮運送グループ
代表/木南 一志
kininami@shingu.co.jp
電話 0791-75-11212

レベルを下げるのは

春の足音が聞こえてくる時期となりました。地域によってはまだまだというところも多いことですが、春はもうすぐと思うだけでも気分がウキウキするように思えます。国の垣根を越えて考えなくてはならない問題がたくさん起きていますが、その解決策は国際ルールです。規則に従ってお互いが譲り合うことで物事がスムーズに進んでいきます。そのためには考え方を合わせていく必要があります。分かりやすく言えば、信号機の青は進め、赤は止まれという基本が国によって違うと譲るという解決に向けた行動以前の課題となっていくからです。

日本は、明治五年の開国まもない時期に進んでこのルールに従いました。建国以来続いてきた私たちの生活の基軸ともいえる暦（カレンダー）を西洋で広く使われている西暦に合わせたのです。今からたった百五十年ほど前、決断されたのは明治天皇です。自らの身を以て範を示されてきた明治天皇は急激な時代の変化を受け容れて、国のため、国民のために世界人として育つように決断されたのではないかと私は考えています。それまでの元旦を二月十一日にして、世界基準と合わせることで譲るといふ考え方を教えられたのではないのでしょうか。

一方、決して譲ってはならないこともあります。誇りある我が国の歴史です。歴史を繙いていくと、たとえば、当地のたつの市の命名の由来は神話につながります。大和の国が日本の首都であったころ、相撲の神様といわれる野見宿禰が出雲の国に帰る途中、揖保川の里で亡くなったのです。そして、その死を悼み、人々が墓をつくる石を川原から運ぶ姿を野に立つ「たつの」となりました。今も山の中腹に野見宿禰神社があります。身近に存在している神話や歴史を戦後の日本では学校で教えてきませんでした。それよりも高度に仕組まれたWGIIP（ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム）という占領戦略で現在の日本が育てられたのです。学べば分かります。私たちのそばには連綿と続いてきた歴史が今も存在しているのです。議論する前に学ばなくてはならないのです。修身書は人として生きる道を説いてくれています。全世界の立派な人や行ないを教えてくれているのです。学ばない人は自らレベルを下げていきます。それは、譲ることを知らない、あおり運転の大馬鹿者と同じと知らねばなりません。正しいことを学び、実行してまいります。

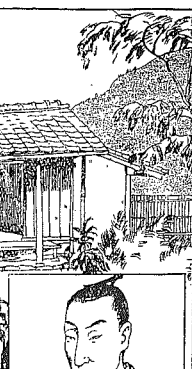
被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

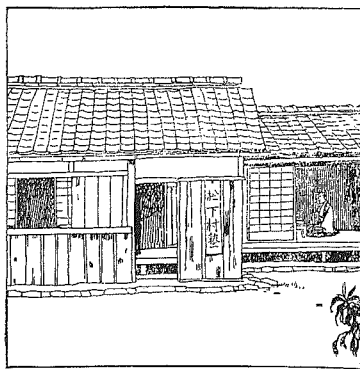
尋常小學校修身書 卷五 兒童用

第十七課 自信

吉田松陰は長門の人であります。十二歳の時、始めて藩主に召出されて兵書の講釋をいひつけられました。家の人たちはいろ／＼と氣づかたが、松陰は藩主の前に進み出て大ぜいの家來の列んでゐる中で、少しも臆せず、自分の知つてゐる通りはつきりと講釋したので、藩主をはじめ皆大そう感心しました。



松陰は外國の事情がわかるにつれて、我が國を外國に劣らないやうにするには、全國の人に尊王愛國の精神を強く吹込まなければならぬと、かたく信じて、一身をさへげて此の事に盡さうと決心しました。二十七歳の時、郷里の松本村に松下村塾を開いて、弟子たちに内外の事情



を説き、一生けんめいに尊王愛國の精神を養ふことにとめました。松陰は至誠を以て人を教へれば、どんな人でも動かされない者はないと、深く信じて、「松本村は片田舎ではあるが、此の塾からきつと御國の柱となるやうな人が出る。」と言つて、弟子たちを勵ましました。

松陰が松下村塾を開いてゐたのは、僅かに二年半であつたが、はたして其の弟子の中からりつぱな人物が出て、御國の爲に大功をたてました。

身はたとひ武藏の野邊に朽ちぬとも

留め置かまし 大和魂

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせていただきます。ありがとうございます。